

部会当日は下記の4報告が行われた。

- 丸山洋平（札幌市立大学）「孤立の高齢者の分析—住宅所有関係別に見た遠居子と無子の地域差」
- 狭間諒多朗（南山大学）「若年Uターン者に関する基礎的分析」
- 吉田俊文（慶應義塾大学大学院）「未婚期における親元同居率の趨勢——「国勢調査（1975-2015）」公表集計を用いた二次分析」
- 佐々井司（国立社会保障・人口問題研究所）「コロナ禍の人口動態に関する一考察」

報告者を含め10名ほどが議論に参加。お互いの顔が見えやすい規模ということも手伝ってか、参加されたほとんどの方が議論に加わり、充実した内容となった。

とりわけ、世帯に関する定量的な分析を行ううえで、報告者の多くが共通の課題を抱えているように感じた。（佐々井司 記）

第85回日本健康学会総会

2020年12月5日（土）～6日（日）、オンラインで日本健康学会総会が開催された。日本健康学会とは、1930年に創設された民族衛生学会が2017年に名称変更されたもので、今回の総会会長の三砂ちづる津田塾大学教授によれば、「医療の枠組みとは一線を画しながら」健康を語る学会であり、健康を多次的にとらえ、「健康学」という分野を確立する、という目標を掲げている。

本総会では、感染症、出生前診断、健康論等に関する講演・シンポジウムが行われ、研究報告はすべてオンライン・ポスターの形式で行われた。筆者は「人口高齢化と新型コロナウイルス感染症死亡統計一年齢構造調整の必要性」と題するポスター報告を行った。（林 玲子 記）